

まっとうまちなか商店街活性化プロジェクト ～秋祭りを核とした若者目線での商店街の持続可能な発展への模索～

団体名 ● 辰巳ゼミナール、井川ゼミナール

代表者名 ● 辰巳佳彦（女子短期大学部・助教）、井川貴裕（人間科学部スポーツ学科・助教）

はじめに(背景・目的・目標)

2019年度より、白山市との連携協定に基づく活動として、本学経済学部新ゼミナールではSDGsをテーマとした地域活性化に取り組んでいる。2022年度より、牧野ゼミナールがデザインやマーケティングの手法を通じて「まっとうまちなか商店街」の秋祭りでの企画運営に携わり、松任駅南地区の活性化に貢献してきた。

2024年度からは辰巳ゼミナールも加わり、SNSなどの若者視点を導入することで、商店街の持続可能な発展に向けた新たな施策を模索している。

活動内容

(1) まっとうまちなか商店街秋祭り

2025年度は、人間科学部スポーツ学科井川ゼミナールの協力を得て、秋祭りの新たな企画を実施した。

幅広い世代の方々を楽しんでもらえることを目的として「反応測定」と「バランス測定」を行い、井川ゼ



ミ生(参加者3名)からのレクチャーを受けた辰巳ゼミ生(参加者8名)がアシスタントを担う形で実施した。

(2) 商店街の持続可能な利用促進策の企画と実施

商店街の持続可能な利用促進策の一環として、オリジナルノベルティを制作した。制作したのは、飲食店が多い商店街の特性を考慮した「コースター」と、



実用性の高い「エコバッグ」の2点である。コースターは、飲食を伴わない店舗でも展示や来客用として活用可能であると想定

し提案した。これら2点は、牧野ゼミおよび辰巳ゼミによるデザイン案やアイデアを反映させて制作し、商店街へ贈呈した。

成果、結果の考察

井川ゼミの提案による各種測定体験は、家族連れを中心とする幅広い層に体験していただくことができ、秋祭り当日の企画として大変効果的であったと考えている。

本プロジェクトでは、商店街の利用促進に向けた入口として秋祭りを位置づけ、日常的な利用促進を狙っている。しかし、秋祭り以外の期間における活動が今年度も十分にできているとはいえ、一過性の要素が強い点は引き続き大きな課題である。

一方で、課題への対応策の一環として制作したノベルティは、商店街関係者からも高く評価された。特にコースターの評判は高く、エコバッグについては複数店舗の利用客へ配布されている。これらは秋祭り当日のみに限定されないプロモーションとして、一定の効果を上げたかと評価できる。

今後の課題、展望

日常的な商店街の利用を促進するためには、秋祭りだけではない定期的に行える活動をさらに模索し、定着させる必要がある。

また、今年度より新たに加わった井川ゼミとの連携は、商店街関係者からも高い評価を得ており、来年度以降もこの学部横断的な協力体制を継続し、強化していきたいと考えている。

次年度には、大学生と年齢層が近く、より地域に密着した存在である松任高等学校の生徒との連携も視野に入れている。来年度以降も、商店街のさらなる活性化と持続可能なまちづくりを目指していきたい。